

いきいき健康セミナー 「医療費のお話」開催のご案内

当院では、地域の皆様を対象とした「健康セミナー」を、動画配信（YouTube）にて公開しております。

ご自宅にいながら、好きな時間に、パソコンやスマートフォンで健康に関する動画を視聴することが可能です。今後も医療や病気の予防に関する動画を随時公開していきます。

福岡大学筑紫病院
公式YouTubeチャンネル
にて配信中

第38回 いきいき健康セミナー

「医療費のお話」 (約20分)

講師 医療ソーシャルワーカー 谷口 裕美

医療ソーシャルワーカーって何する人！？
病気になったときに利用できる制度について、
医療ソーシャルワーカーがわかりやすく
お話しています！

右記QRコードより
アクセスしていただくか、

コチラ

筑紫病院 公式 YouTube

で、検索し、ご視聴ください。



日本胃癌学会認定施設（B） に認定されました。

近年の胃癌治療は、急速な医療の進歩により、その内容は多様化・専門化しています。その一方で、ピロリ菌感染率の急速な低下もあり、日本の胃癌発生数は今後減少していくことが予想されています。このような現状から、日本胃癌学会は今後も質の高い胃癌治療を維持し、広く社会に提供していくため、2023年度から施設認定制度を発足しました。

当院は、関連学会の専門医数や、手術や内視鏡、抗がん剤治療の症例数、学会での論文発表などの基準をクリアして、日本胃癌学会認定施設（B）に認定されました。



認定番号 施B023-037

認定期間 2023年4月1日～
2026年3月31日（3年間）

福岡大学筑紫病院ニュース

ちくし



福岡大学筑紫病院の理念 あたたかい医療

「基本理念」

私たちは地域に密着した救急医療を目指すとともに、大学病院として質の高い医療と情報を提供し、地域の皆様に安心と信頼を持っていただけるよう努めています。
その基本は「人間性に立脚した医療」、心の繋がりを大切に、患者さん本位の“あたたかい医療”を実践しています。

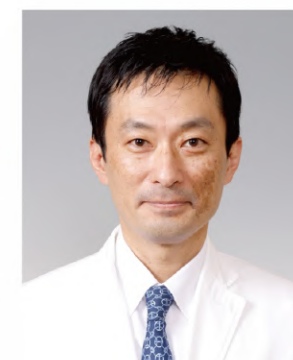
「基本方針」

1. 安全、安心な思いやりのある医療の実践
2. 大学病院として、高度先進医療の提供
3. 地域医療支援病院・地域がん診療病院として、情報発信とともに地域医療への貢献
4. 開かれた質の高い多職種協働によるチーム医療の実践
5. 患者の尊厳を尊重し、倫理観を備えた優しい心を持った医療人の育成

消化器内科

消化器内科教授（消化器内科診療部長／内視鏡部診療部長／
炎症性腸疾患（IBD）センター診療部長）

久部 高司



ご挨拶

令和6年4月1日より消化器内科教授（消化器内科診療部長／内視鏡部診療部長／炎症性腸疾患（IBD）センター診療部長）に就任しました久部高司（ひさべたかし）と申します。私は長崎県長崎市の出身で、平成6年に福岡大学医学部を卒業いたしました。卒業後は福岡大学筑紫病院消化器内科に入局し、これまで消化器内科の八尾恒良教授、松井敏幸教授、植木敏晴教授そして内視鏡部の八尾建史教授のもと診療・研究・教育に努め今年で30年目となりました。専門領域は大腸疾患並びに炎症性腸疾患で、主に画像診断と内視鏡治療に注力してまいりました。また平成31年4月より炎症性腸疾患センター長に就任しておりますが、炎症性腸疾患の

診療については集学的な診療体制が必要であり、IBD チーム医療ワーキングを通して職種や診療科の垣根を越えたチーム医療の実践に努めております。日々の診療において他科との協力は欠かせませんが、特に消化器内科診療において要となる外科と病理部とは緊密に連携し診療にあたっております。



消化器内科スタッフ

診療日のご案内

循環器内科	腎臓内科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器内科	小児科	外科	呼吸器・乳腺外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	脳神経内科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんご科	放射線科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【受付時間】

〈平日〉8:40～11:00

※1 小児科の専門外来は要予約 ※2 休診中

【休診日】

土曜日・日曜日・祝日

年末・年始（12月29日～1月3日）お盆（8月15日）

【面会時間】

〈平日・土曜日〉13:00～20:00 〈日曜日・祝日〉11:00～20:00

※面会の状況については、当院ホームページをご確認ください。

交通のご案内



JR・西鉄電車ご利用の場合

西鉄大牟田線「朝倉街道駅」下車……………徒歩3分
JR鹿児島本線「天拝山駅」下車……………徒歩3分

自家用車ご利用の場合

九州自動車道「筑紫野IC」より……………車で5分
県道31号線「鳥栖筑紫野道路」武蔵交差点より……………車で5分

※時間帯により、交通混雑が予想されますので、ご利用時間は目安としてください。

※なるべくJR、西鉄電車などの公共交通機関をご利用ください。

地域医療支援病院・地域がん診療病院
福岡大学筑紫病院
Fukuoka University Chikushi Hospital

〒818-8502 福岡県筑紫野市俗明院一丁目1番1号
Tel. 092-921-1011(代) Fax. 092-928-3890
<https://www.chikushi.fukuoka-u.ac.jp>



現在我々の消化器内科は、消化管研究室と肝胆膵研究室の2つの研究室で構成され全ての消化器疾患をカバーしており、外来診療（図1）は月曜日から金曜日まで行い、緊急の内視鏡検査や治療にも対応しております。ご存知の通り、大腸癌や炎症性腸疾患、膵癌、胆管結石症は増加の一途を辿っておりますが、こうした症例を含め多くの患者さんをご紹介いただき、令和4年度の外来患者総数は33,448人（新患患者3,234人）でした。地域医療支援病院として更なる診療体制の整備を行い、地域の先生方との連携を深めてまいりたいと考えております。今後とも地

消化器内科の紹介

1. 消化管

消化管領域では、通常の診察に加え最新の拡大やAI搭載内視鏡、小腸内視鏡、X線造影、CTなどを用いて、腫瘍や炎症性腸疾患、消化管出血、過敏性腸症候群など様々な消化管疾患に対して、病変の早期発見と正確な診断により治療を行なっています。以下に消化管領域で対応しているいくつかの疾患について紹介いたします。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍、大腸憩室出血など消化管出血に対する緊急内視鏡治療にも常時対応し、高周波焼灼術やアルゴンプラズマ凝固、クリップを用いた内視鏡止血術も行っております。また小腸からの出血に対してもカプセル内視鏡やバルーン小腸内視鏡を用いて診断し内視鏡治療も積極的に行っています。

腫瘍については、咽頭、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸と全ての消化管に対し、内視鏡治療の適応のある病変に対して内視鏡治療を行なっております。手技については、病変や患者さんの状態に応じて、日帰り大腸ポリペクトミーをはじめ、粘膜切除術（EMR）や大きな腫瘍に対しては高度な技術を必要とします粘膜下層剥離術（ESD）を行っており、令和4年度の早期癌に対する内視鏡治療件数は咽頭・食道癌61件、胃癌98件、大腸癌96件となっています。さらに、これまで外科手術の適応でありました胃粘膜下腫瘍に対して、先進医療として令和3年度より内視鏡的胃局所切除術を導入し低侵襲的な医療の提供を行なっております（図2）。また、大腸癌による腸閉塞症例に対しては大腸ステントを挿入し術前狭窄解除を行うことで、緊急手術の回避や手術までの期間の自宅待機が可能となっています。

炎症性腸疾患については、令和4年度に診療した外来患者数は潰瘍性大腸炎が954名、クローン病が

域の先生方のお役にたてるよう、地域医療に貢献してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

図1 外来担当

	月	火	水	木	金
消化管	高津典孝	宮岡正喜	八尾建史	久部高司	八坂達尚
	金光高雄	今村健太郎	小野陽一郎	天野良祐	武田和大
	古賀章浩	武田輝之	平瀬崇之	児島宏晃	高野恵輔
	三雲博行	大園修吾	副島祥		
肝胆膵	野間栄次郎	野間栄次郎	丸尾達	後野徹宏	田中利幸
	永山林太郎	平塚裕晃	中村亮介	松岡大介	中島美紀

784名で、紹介患者数は184名と増加傾向となっております（図3）。病態解明が進み多数の効果的な治療薬、治療法が開発され、従来から用いられてきた栄養療法、5-ASA製剤、ステロイドなどに加え免疫調節薬や生物学的製剤など多くの新規治療を取り入れています。しかし、従来の治療薬に抵抗性を示す患者さんも多く、有効性が期待される治験薬

図2 胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的胃局所切除術

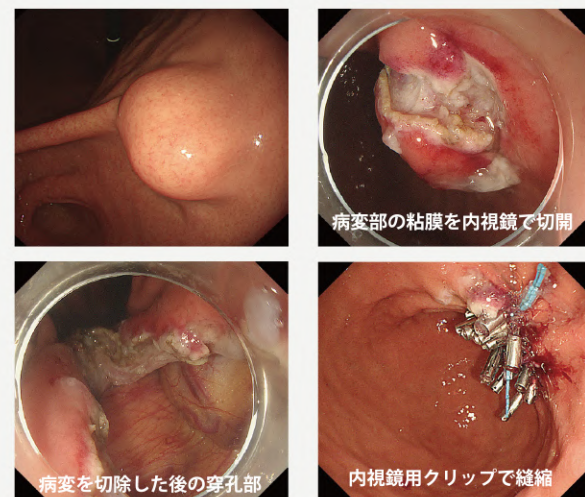
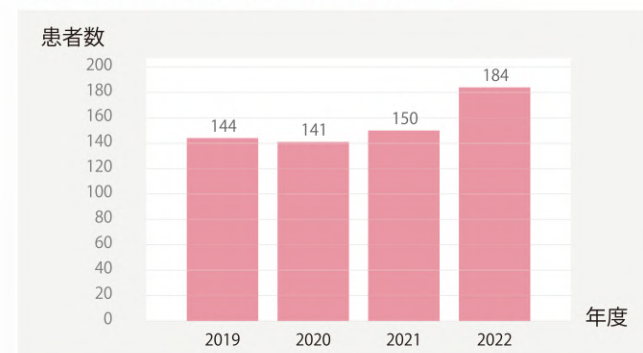


図3 IBD 紹介患者数の年次推移



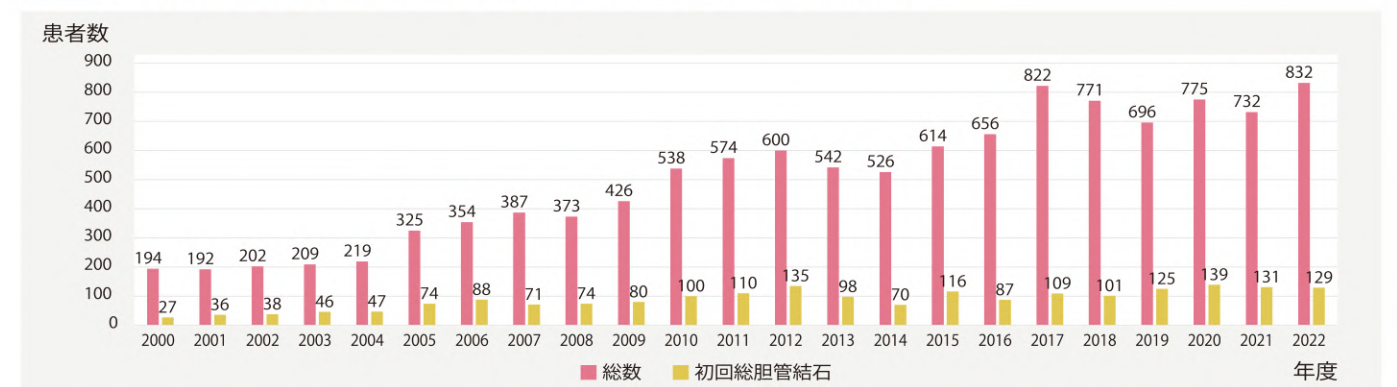
をお勧めすることもあります。患者さんの利益を優先させながらではありますが、積極的に治験に参加することで新たな薬剤の開発にも貢献しています。また、クローン病では、腸管合併症を有し外科手術が必要な症例も少なくないですが、腸管を温存する目的で腸管狭窄合併例に対しては内視鏡的バルーン拡張術を積極的に行っています。また、院内外のメディカルスタッフに向けたIBDメディカルセミナーの開催や患者さんと家族向けのIBD教室を医師、看護師、薬剤師、栄養士を講師として行っています。

2. 肝胆膵

肝胆膵領域では急性胆嚢炎や総胆管結石性胆管炎などの急性疾患や慢性肝炎や慢性膵炎などの慢性疾患、肝胆膵癌などを取り扱っています。以下に肝胆膵領域で対応しているいくつかの疾患について紹介いたします。

総胆管結石性胆管炎などの良性疾患だけでなく、膵臓癌や胆道癌による閉塞性黄疸などの悪性疾患に対して内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）関連手技を行っており、年間800例前後のERCP関連手技を行っています（図4）。また、内視鏡的に治療が困難な場合は、経皮経肝胆管ドレナージ（PTBD）関連手技も行っています。その中でも、高齢化社会に伴い増加している疾患のひとつである総胆管結石性胆管炎は、ほとんどの症例で内視鏡的乳頭切開術や経皮経肝胆道鏡下に低侵襲で結石除去を

図4 内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）関連手技の年次推移



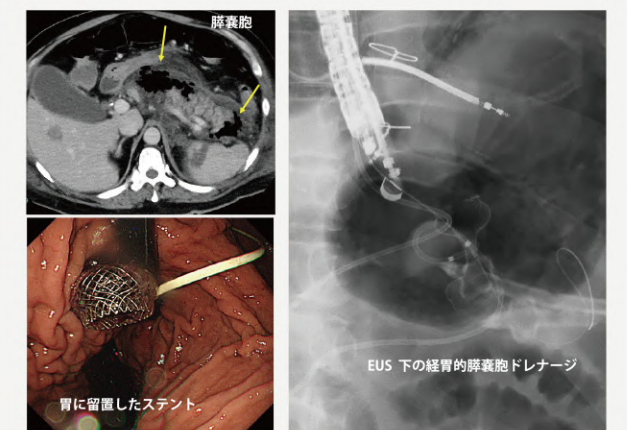
最後に

当院の理念である、患者さん本位の「あたたかい医療」の実践に努め、患者さんご家族に心から安心していただける医療を提供することはもちろんのこと、大学病院として質の高い先進的で高度な医療も提供してまいります。新しい治療を優先的に用いるのでは

行っています。こうした内視鏡処置を早期に行い、入院によるADLの低下を最小限にするよう心がけ、在院日数の短縮にも努めています。また、超音波内視鏡を用いて経消化管的に胆管ドレナージや嚢胞ドレナージ（図5）など、比較的新しい手技も行っています。

C型肝炎ウイルスは経口の直接作用型抗ウイルス療法（DAAs）など治療薬の発達に伴い完治する疾患となりましたが、そのC型肝炎や未だ完治が難しいと言われているB型肝炎に対する核酸アナログ製剤を中心とした薬物療法や、食道静脈瘤に対する内視鏡治療も行っており、比較的早期の肝細胞癌に対してはラジオ波焼灼術や肝動脈塞栓術を、進行し切除不能である肝細胞癌・胆道癌・膵臓癌においては、当科で化学療法を行なっています。

図5 経消化管的嚢胞ドレナージ術



なく、症例に応じた最適の治療を選択し、より有効かつ安全に適用しています。さらに、筑紫地区の地域医療を今後も担っていく臨床医の育成にも努めてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。